

理事長告辞

「水温む 日本託せる若人よ」

新型コロナウイルスに汚染されていく世界は、危機的状況にあり、それだけに今、輝く瞳の皆さんに、期待がかかります。

本日、第17回の卒業式を迎えました。来賓、保護者、在校生もいない卒業生の皆さんと教職員の式、安東副学長はこのような状況を「思い出という名の未練」と語って頂きました。卒業式をこのような形で行うことは、少しばかりの未練を残すことになり、残念さもありますが、周りの先生方は、例年になく祈りと愛惜の情で449人の皆さんを見送っておられます。

学長の最後の式辞をいつまでも胸にとどめて巣立って下さい。サッカー、ラグビー、ゴルフ、野球、大相撲、春のセンバツ高校野球等が中止、又は無観客の大会にもなりました。

又一方では、ホテル、レストラン、観光地、ディズニーランドやハウステンボス等をはじめ産業界の落ち込みも激しく、日本、世界の経済がどうなっていくのかという不安と心配、でも私達は望みをなくさない。夢と希望を捜し出す。コロナウイルスという大きな壁は、絶望の人生の淵にあった時、尚力強く前をみて、生き抜く人生と二重映しになってくるのであります。こうした数限りない試練を、人類は克服し、今しっかりと立っています。

皆さんの前途には、これに比肩する多くの難題が存在します。その時こそ、大学で学んだ課題解決の能力を発揮して下さい。

「水温む 日本託せる若人よ」

どうぞ皆さんの手で、明るい未来を作って頂くことを祈念し、告辞といたします。ご卒業おめでとうございます。

令和2年3月14日

学校法人九州文化学園 理事長 安部 直樹